クルーズ観光の拡大

(1)長崎港松が枝国際観光船埠頭の整備

長崎港は、平成22年2月、15万総トン級クルーズ客船「クイーン・メリー2」が、観光船埠頭としては日本で初めて松が枝岸壁に入港するなど、これまでに数多くのクルーズ客船を受け入れている、日本を代表する国際観光港です。平成23年3月には、ターミナル周辺の緑地などの整備が終わりましたが、今年度はこれに引き続き、客船とターミナルビルとの間に連絡通路を整備し、悪天候時の利便性を向上させ、国際ゲートウェイ(玄関口)機能の更なる強化を目指します。

【事業主体】 長崎県
【関係地域】 長崎市
【事業期間】 平成20年度～平成23年度(完了予定)
【進 捗 率】 93%(平成22年度末)
【総事業費】 約22億円
【平成23年度事業内容】
事業費:1億5,000万円
施設:連絡通路

松が枝国際観光船埠頭(ターミナル、緑地等が完成)

平成23年度末、松が枝国際観光船埠頭全体完成
→・国際ゲートウェイ機能の更なる強化
・上質な景観により、県民の憩いの場の創出

●長崎港は、日本を代表する国際観光港

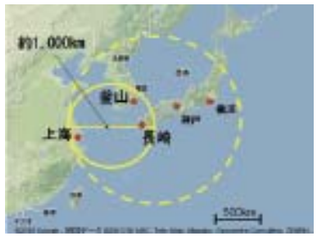
○東アジア(上海)に最も近い重要港湾

東アジアクルーズで優位な位置

地中海

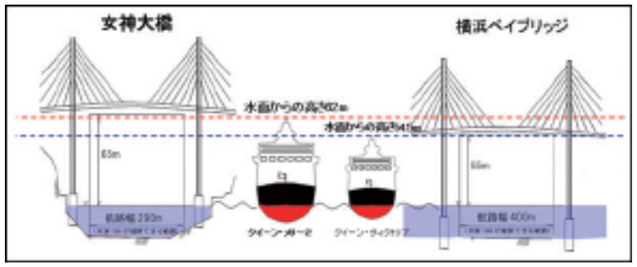
カリブ海

長崎港と環黄海都市
(イーストアジアクルーズ)



クルーズ客船入港による経済波及効果は、
2千万円／隻
＊15万総トン級クルーズ客船は、5千万円／隻

女神大橋桁下は15万総トン級
クルーズ客船でも通過可能



●日本・中国の新幹線網をつなぐ交流の拠点

日中両国で整備が進む新幹線網を「上海航路」で結び、新たな人の交流を創出

県産品の輸出強化と企業の進出支援

(1)長崎港小ヶ倉柳地区貨物埠頭の整備

長崎港は、外貿コンテナの定期航路の他、発電プラント製品の輸出等に使用される国際貿易港です。近年、国際海上輸送手段のコンテナ化が急速に進んでいる中、東アジアへ距離的に近いメリットを活かし、近隣の外貿港湾との競争力を強化するため貨物埠頭の再編整備を行います。

老朽化した岸壁の改良工事に合わせて、ふ頭用地の不足を解消し効率的な輸送体系を確立するため、貨物埠頭を再編し、地域の経済や産業を支える機能の強化を図ります。また、防災拠点港としての役割を担うため耐震強化岸壁を整備します。

【事業主体】 長崎県、国土交通省
【関係地域】 長崎市
【事業期間】 平成19年度～平成25年度完成目標
【進 捗 率】 72%(平成22年度末)
【総事業費】 約106億万円
【平成23年度事業内容】 事業費:13億5,100万円
施 設:岸壁(改良)、ふ頭